

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

豊島区上映会 会場:ワーカーズコープ池袋本部

豊島区東池袋 1-44-3 池袋 ISP タマビル 8 階(池袋駅東口より徒歩8分程度)



中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

9/21 (土) ①10:30 ②14:00

10/2 (水) ①10:30 ②14:00 ③18:00

各回 30 分前に開場 毎回先着 50 名

参加費: 一人 1,000 円 (障がい者/大学生以下無料)

【申込】↑QRコードもしくは
FAX0343324524

でお名前と鑑賞希望日時等をお知らせ
ください。(問) ☎09047492705

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎シャワール会/PM S
企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会センター事業団
一般社団法人 日本社会連帯機構
製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分





アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

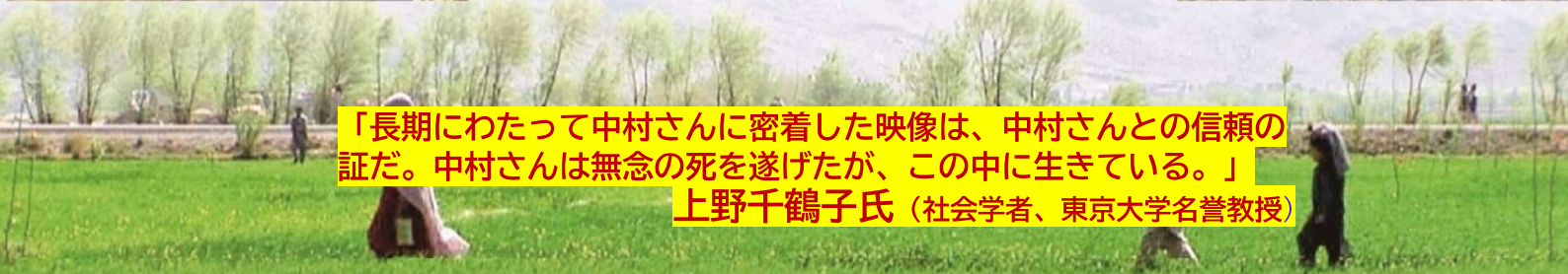
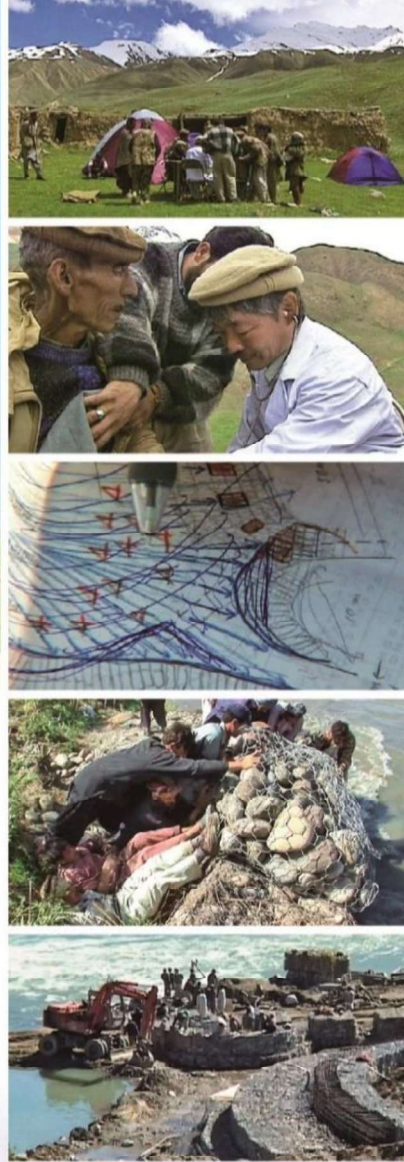
医師中村哲の
仕事・働く
ということ

1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」
上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）

9/21(土)①10:30~ ②14:00~ 申込先着 50名

10/2(水)①10:30~ ②14:00~ ③18:00~

各回 30分前に開場 会場:ワーカーズコープ池袋本部

豊島区東池袋 1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

参加費:一人 1,000円 (障がい者/大学生以下無料)

(上映会終了後に感想・質問など懇談会あり)

【申込方法】下記にご記入し FAX(0343324524)

もしくは右QRコード



お名前	希望日時		
お連れ様の名前	年代	ご所属	
電話番号	-	mail	@

FAX(0343324524)もしくはQRコードでの申込みができない方の申込 (問) ☎09047492705

主催:ワーカーズコープ・センター事業団池袋本部

(受付時間:平日 10:00~17:00)

共催:(一社)日本社会連帯機構 後援:

